

## 報告

## 2018年度北海道支部大会報告

実行委員長（北海道支部長）

竹内 典彦<sup>A</sup>

さる8月4日（土）に、グローバル人材育成教育学会北海道支部の主催で、「グローバル人材育成教育学会第4回北海道支部大会」が、北海道情報大学（江別市西野幌59-2）eDCタワー3階多目的室で開催されました。

本州以南は猛暑の中、当日は幸いにも30度を下回る気温になり、主催側としては安堵いたしました。出席者数も53名と、これまでの支部大会よりも多く、人数的にも内容的にも実り多い大会となりました。これもひとえに、ご講演された勝又美智雄先生（国際教養大学名誉教授）、学会本部事務局のご支援、そしてご発表者の方々の質の高い報告と、はるばる遠方よりご参加いただいた出席者と賛助会員様のおかげであります。

A: 北海道情報大学

またこの場を借りて運営スタッフの皆様にも感謝申し上げます。事務局長・予稿集担当の田原博幸先生（札幌大学）、会計・受付担当の福沢康弘先生（北海道情報大学）、会場・司会担当の伊藤一正先生（同）、司会担当の中山健一郎先生（札幌大学）、記録担当の浅見吏郎先生（同）、茶菓担当の尾田智彦先生（同）、ご協力本当にありがとうございました。

今年の大会テーマは、『分野・学校・産学のボーダーを越えたグローバル人材育成の最前線』でした。12時30分の開会后、筆者による挨拶、その後第1部（北海道企画）として最初に、英語力向上事業研究指定校の実践である「グローバルマインドで地域の魅力を発見・発信～倶知安農業高校総合実習・生活班の取り組み～」を前田義江先生（倶知安農業高校）と高校生4名が発表してくださいました。参加者からは質の高い発表に感銘を受けたという声が多く上がりました。次にSSH

(スーパーサイエンスハイスクール)指定校の実践として、「SSHにおける農業教育と英語教育の融合—未来のグローバル人材を目指して」を満保浩司先生(岩見沢農業高校)と高校生6名が発表してくださいました。こちらでも高校生の英語による一生懸命な発表に好感が寄せられました。第1部の最後に、高大産連携として「英語科・社会科・大学連携によるグローバル社会実習～利尻高校“Rishiri Pride”の取り組み～」を福沢先生、中西真弓先生(利尻高校)、鈴木香代子先生(礼文高校)による共同発表がございました。高大産による複合的取り組みとして大きな注目を集めました。

第2部は(招待発表)のセッションとして、初めに(産業界)より「中小企業における外国人従業員とのコミュニケーション～ベトナム現地法人での事例および北海道での事例～」と題して 高奥淳氏(株式会社サンコーベトナム代表)による発表がなされ、勝又先生からも高い評価をいただきました。次に「高度外国人材(主に外国人留学生)の活用促進へ向けて」と題して大辻晴幹氏(小樽商科大学大学院)による興味深い分析のレポートがなされました。最後に「未来のグローバル人材を育てるのはローカルから」と題して山崎秀樹先生(千歳高校)による高校生の躍動感が伝わるすばらしいご報告がなされました。

第3部は(会員発表)のセッションとして、最初に「海外留学と国際インターンシップの「ベースキャンプ」を構築する—北海道大学発グローバル・キャリア・デザイン事業の理念と展開」と題して正木幹生氏(北海道大学大学院)による貴重なご発表がなされ大いに聴

衆の興味を引きました。次に「理系女子学生のエンパワーメント—グローバル化の観点から」と題して塚崎香織先生(鹿児島高専)によるたいへんユニークなご報告がなされました。3番目に「カップリング・インターンシップ—異分野融合・産学連携による学生の学び—」と題して勝又美穂子先生(大阪大学)による興味深い実践報告があり、活発な質問が出されました。休憩後に、勝又先生によるお待ちかねの特別講演「グローバル人材と英語」が、大会最後のプログラム(第4部)となり、先生による熱弁に感動した聴衆が終了後にご著書を買求める姿がありました。

前後しますが、第2部終了後に、賛助会員の桐原書店様、グローバルエイト様、チエル社様からの貴重なスピーチもございました。閉会後は情報交換会が、eDCタワー2階のカフェテリアで開催されました。学会理事の穴田有一先生(北海道情報大学)のご挨拶、昨年の全国大会シンポジウムでコーディネーターをされた中山先生の乾杯のご発声の後、楽しいひと時も瞬く間に過ぎていきました。終わりに会計・受付とご発表の3役を立派に果たされた福沢先生の乾杯で会を閉じました。最後に伊藤先生が記念写真を撮影してくださいました。終わりに当たりまして、皆様のご協力とご支援に重ねて感謝申し上げます。ありがとうございました。

受付日 2018年9月17日、受理日 2018年9月18日